

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



38



アレス動物
医療センター長
(高岡市下伏間江)
沖田 将人

犬は犬種によって発症しやすい疾患があります。例えばキャバリアは心不全になりやすく、ミニチュアシュナウザーは高脂血症、柴犬はアレルギー性皮膚炎になりやすいなど、さまざまです。中でも日本で人気の犬種で特に多いのが関節疾患です。

トイプードル、チワワ、ポメラニアンなど小型犬種では、膝蓋骨内方脱臼という膝関節の疾患が起こりやすく、ラブラドルレトリバー、ゴールデンレトリバー、バーニーズなどの大型犬種では股関節形成不全という股関節疾患が起こりやすいとされています。ミニチュアタックスフンドなどで多いとされている椎間板ヘルニアも、

犬の関節疾患



脊椎関節の疾患という意味では関節疾患と言えるでしょう。

犬種ごとに出やすい疾患は異なりますが、いずれも悪化すると手術が必要になり、とても大きなリスクと治療費がかかります。また犬が自由に走れなくなる、あるいは関節の痛みとともに生きていくのはとてもつらいことです。

ベスト体重守って

人間でも歳をとれば関節炎や腰痛などさまざまな疾患に悩まされるわけですから、関節疾患が起きやすいという理由で、これらの犬種は買わない方がよいという話ではありません。関節疾患が起きやすいことを踏まえてきちんと飼育し、少しでも発症のリスクを下げるのが重要です。万一発症して人間でも歳をとれば関節炎や腰痛などさまざまな疾患に悩まされるわけですから、関節疾患が起きやすいという理由で、これらの犬種は買わない方がよいという話ではありません。関節疾患が起きやすいことを踏まえてきちんと飼育し、少しでも発症のリスクを下げるのが重要です。万一発症して

も、手術だけは避けられるよう努めたいものです。

関節疾患が発症しやすい、あるいは悪化しやすい要因として最も大きな問題になるのが体重です。本来3kgがベスト体重の犬が4kgに太ってしまうと、人間でいえば60kgの人が80kgになってしまうという事です。3kgの犬にとって、たった1kgの体重オーバーは関節前足の触診を受けるラブラドルレトリバーアレス動物医療センター

また過剰なおやつは肥満の元です。3kgの犬は、成人男性から見ると20分の1の体重になります。1粒のおやつを食べれば、人間がそれを20粒食べたことになり、5粒のおやつを与えれば人間がそれを100粒食べたことになり、与えているおやつが本当に適正かどうか一度考え直してみてください。

大切なペットが飼い主さんの甘やかしで走れなくなるような事態だけは避けなければなりません。